

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201049		
法人名	社会福祉法人 生愛会		
事業所名	グループホーム ゲンジョウ		
所在地	大分県別府市大字鉄輪1068番地		
自己評価作成日	平成27年10月	評価結果市町村受理日	平成28年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成27年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・支援方法や、業務の疑問点、改善点は、職場会議で検討を行い、共通認識を持てるように心がけを行っている。

・利用者の方が、今興味があること、気になっていることを生活の様子から把握し、気づいたことは話し合いを行い、そのことを実現・解決できるように取り組んでいます。

・誕生日には好きな食べ物を事前に把握し、外食に出かけお祝いしている。外出行事の機会も多く、気分転換や楽しいと感じてくれるような企画を作成している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・市街地から離れているが自然が多く静かな環境の中で穏やかに過ごせている。

・家族会との連携もよく、明るい雰囲気でも過ごせる環境である。

・プランも現状に合った「その人らしさ」を求め、寄り添った支援がされている。

・行事の時は好きなメニューを用意し、ボランティアの支援もあり、楽しく過ごせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員一人ひとりが日頃心がけていることを事業所の理念として掲げ、実践につなげるようにしている。実践につながっていない部分もあるのでつなげていきたい。	朝礼は毎日行われ、理念を職員が志として立てて会議の中で確認し、実践に繋げるよう努力している。コミュニケーションをうまく取れるよう呼び掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方の誘いで、地区の盆踊りに毎年参加している。自治会の方に呼びかけ、民謡の踊り会の会を開催している。今年度より、介護支援ボランティアを1名受け入れている。	近隣に民家が少なく地域との交流が難しい環境にあるが、地区の盆踊り等に毎年参加し、自治会との繋がりを大切に働きかけに努めている。地域のボランティアの方が1名来てくれ支援がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌をご家族、運営推進会議参加者に対して配布し説明を行っている。広報誌には、認知症に関する事柄をのせ、理解の働きかけている。時には、老人会に参加し認知症の症状の説明、事業所の活動を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの事業報告とともに、参加者からの質問・意見・要望に応じている。参加者からの意見は、月1回の職場介護にて職員に伝えている。前年度は、看取りケアを行いその時の感じたことや職員の気持ちを会議で報告しています。今年度から、ヒヤリ・ハット、事故を報告しています。	法人のドクターや包括の職員・地域・自治会・家族代表が参加し、質問意見要望が出やすい雰囲気作りに努めている。議事録により流れが把握でき、質の良いケアに繋げるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回参加してくれている。人員配置について、アドバイスをいただいたり、事業所の実情、取り組みを理解してくれている。	市から4名の方がローテーションで出席し、それぞれの見方で意見が頂ける。行事報告をしたり事業所の実情を話し、取り組みのアドバイス等をもらいながら支援に繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場会議で事例、マニュアルを用い、身体拘束を行うことで起こるストレスや混乱につながることを理解してもらっている。外部研修に参加することでより理解を深め、日々のケアに取り入れている。	身体拘束をしないマニュアルを用いて、日々のケアに取り入れ支援している。市開催の研修に代表が出席し、持ち帰り、内部で研修を行って情報を共有し、支援に繋げている。		

事業者名:グループホームゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場会議で事例、マニュアルを用い、検討している。様々な視点で利用者を見て行くことや、感情のコントロールについても確認を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場会議や個人面談なので資料を用いて制度の説明を行っているが、日頃行っている業務とは違う為、理解が難しい。現状では支援できる体制が万全とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には専門用語は出来るだけ使用せず説明を行っている。入居への不安を軽減する為に、支援方法を十分に説明し、理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2度、家族会を開催し意見を聞いている。直接言えないご家族もいるので、年に1度、無記名でアンケートに答えてもらっている。また、その時に出た意見は職員全体で把握し、運営に反映させている。	家族会と連携が取れており、アンケートを取るなど意見の出やすい雰囲気作りに努め、意見を反映させている。3か月に1回「あんさんぶる通信」を出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は意見やアイデアを聞き、職員と意見交換を行い、提案を反映させている。消極的な職員もいるので、個別に意見を聞く機会を設ける必要がある。	朝夕の申し送りの時の他個別に意見を聞きながら支援に繋げている。誕生会の件や外出の件など、意見も取り入れながら、質の良いケアを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、資格取得に向けた支援を行い向上心を持って働ける環境づくりに取り組んでいる。管理者は、職員の疲労やストレスの要因について気を配り、個々での相談にのることもある。また、職員同士の人間関係を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	別府市GH連絡協議会、老人福祉施設協議会が開催する研修会には、できるだけ参加するようにしている。職場会議で発表を行っている。定期的に職場研修を行い、職員のケアの力量を把握し助言し、ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市GH連絡協議会、老人福祉施設協議会の活動の一つとして他の事業所と合同で勉強会を行っている。事例検討会では、他の事業所と様々な意見交換を行い、ネットワーク作りやサービスの向上につながっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で今の生活状態を把握し、受け入れるような関係作りが出来るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っていること、困っていること、これまでの経緯について理解しながら聞くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いや状況などを確認し、相談を重ねる中で信頼関係を築けるように努めているが、他のサービスに繋がった事例はない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や性格を把握し、その時の記憶に沿った声かけをし、不安感を取り除くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、生活の様子や体調など伝えている。面会に来られない家族には、電話連絡で取り合い、関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時折、ご本人の自宅まで出かけるようにしている。近所の人との関係も途切れないようにしている。友人・知人との面会時には継続して来ていただけるように働きかけを行っている。	以前住んでいた家の近くまで買い物に出かけたり、近隣の方が面会に来てくれるなど繋がりが途切れないよう出来る限り支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、職員は把握するようにしている。一人が好きの方は、個別で買い物やドライブ、散歩などを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、面会やお見舞いに行っている。ご家族からの相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向などを日頃のかかわりを通じて、新しく得た情報はケアプランに反映している。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりを通じて一人ひとりの思いや意向の情報が得られるようにし、要望を実践に繋げられるよう努めている。困難な方は家族との会話の中から見直したり、ケア会議で検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを利用してシートを作成するにあたり、ご家族には支援に役立てることを説明、理解していただき、可能な限り詳しく聞くようにしている。把握した情報は、ケアプランに反映させ、支援に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、言動などから心身の状態を理解するように努めている。また、手伝いを協力してもらうことで出来ること、出来ないことを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との日常の関わりを通じて、気が付いたことを反映した介護計画を作成するようにしている。意思疎通が困難な利用者に関しては、今までの経緯を考慮し、本人が望むであろうという視点で作成している。	日常の関わりを通し職員でより良い介護になるよう意見交換し実践に繋げている。入院後や転倒の後などは見直しをして支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙を用意し、ケアプランに沿った日々の生活の様子を記録している。また、日中・夜間の日誌にも記録を行い、職員が把握出来るようにしている。		

事業者名:グループホームゲンジョウ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況や要望に応じて、通院の代行を行い負担の軽減を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に住んでいた家を訪ねるようにしている。その際、近所の方とも交流することもある。自治会の方をお願いし地域の行事に参加することもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前より、主治医のいる利用者に対して、本人や家族の希望に沿っている。家族の状況により、職員が受診を代行することが多い。検査結果は報告している。	入所前の主治医に関して本人の希望を聞き、基本的に変えていない。8か所の医療機関と連携している。往診に来てくれるところもあり、希望に沿った連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は産休・育児休暇中だが、利用者の様子・言動などから、変化や気づいたことがあれば看護師に報告、相談し受診の判断を受けていた。薬によって副作用があるかなどの確認も行っていた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、生活の様子、支援方法の情報を医療機関に提供している。職員が交代でお見舞いに行き、回復状況や入院中の様子を聞き、状態を把握するようにしている。入院中の様子は、随時家族に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の事業所の対応や取り組み、医療機関とも連携していることも伝えている。終末期に関して事業所で出来ることを十分に説明している。事業所で対応が困難になった場合は、医療機関や他の事業所への入院・入所の調整を行っている。	重度化や終末期については家族の意向を聞きながら母体病院の支援も受けられるため、方針を共有し支援に繋げている。一度、看取りの経験あり。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場会議で急変時、事故発生時の対応方法についてマニュアルや事例で確認している。特に、食べ物の詰めた場合の対応については、食堂にマニュアルを掲示している。年に数回、万が一に備えて吸引器を使い方の勉強会を開催している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は二か月に一度、日中・夜間を想定し訓練している。訓練の度に、火災場所を変更し様々な状況に出来るように訓練を行っている。年に1度、消防署の立ち入り訓練を行っている。自治会の方にも見学してもらっている。	グループホーム独自での避難訓練があり利用者も一緒に行く。年に一度、消防より来てもらい自治会も参加し訓練している。地域の協力について老人会で説明し理解を求めている。下に広場があるがベランダからの出入り口がない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの状況に応じた声かけを行い支援を行っている。自己決定しやすいように、選択肢を伝え、意思を尊重するように努めている。	利用者一人ひとりの状況を見ながら支援している。男性職員が多いが、女性の入浴に関しては同性を希望されるため意向にそって対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自らが選択できるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、施設で楽しく過ごせて頂けるように支援を行い、不快にならないよう努めている。しかし行事の日程は事業所の都合により計画を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者は行事や外出時にお化粧を行っている。男性の利用者は起床時に髭剃りを行っている。曜日ごとに身だしなみを確認している。外出時は服装をおしゃれにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好を把握し提供している。全員ではないが、数名の利用者には、食事準備、食後の皿拭きを手伝って頂いている。	グループ内では行事食のみ作る。毎週木曜日には利用者と一緒におやつを手作りしている。栄養士に料理の希望を伝える事もある。手作りの時はボランティアの方が手伝いに来てくれ、利用者と楽しみながら作っている。職員と一緒にテーブルを囲み楽しそうに食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、バランスのとれた献立を作成している。食事摂取量、水分摂取量を確認して状態の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯磨きが出来る方は、見守りで対応をしている。上手くできない方は、職員がケアしている。スポンジブラシを使用している方もおられます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握して、個々にあった間隔で誘導を行っている。言動からも読み取りながら支援を行っている。	排泄パターンにより個別に対応している。オムツ利用者はなく、尿取り使用者が多い。個別に合わせ自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に1日の水分量は、食事以外で1000cc以上を目標に摂取を促している。水分量が少ない方には、声かけを工夫してすすめている。便秘がちな方には、トイレ誘導時に腹圧がかかりやすい姿勢をとってもらい対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入れるように準備している。毎日の入浴が苦痛に感じないように無理はせず、希望を尊重し支援を行っている。2～3日拒んで入らない場合が職員が変わり対応している。	入浴は毎日でも希望があれば入れる。温泉であるが、浴槽が個浴には広すぎて対応が大変そうだが個々に工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し生活のリズムが整えるように努めている。前日の睡眠状態やその日の体調によっては休んでもらう時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用をファイルし確認できるようにしている。症状の変化があれば、主治医に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や現在の力を把握し、生活の中で役割を持てるように支援を心がけている。気分転換に買い物やドライブ、散歩に行っている。		

事業者名:グループホームゲンジョウ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブに外出している。希望がなくても、月に1～2回は外出できるようにしている。以前に住んでいた家も把握し出かけることもある。外出行事では、昼食を食べに行くこともある。	デイが休みの時にバスを借り、皆で外出している。坂が多く、車移動でなければ無理であるが、できるだけ気分転換で外気浴の散歩をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は職員が責任を持って管理、支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた時は本人に渡している。読むことが難しい方には、手紙を読んでいる。年賀状が書ける方はご家族に書いていただいている。書けない方は、職員が代筆している。電話の希望があれば、できるだけ掛けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節に沿った飾りつけを行っている。玄関には花壇を作り花を栽培している。行事の写真をホール・居間に貼り、思い出してもらえるようにしている。	自宅で使っていた物を置き、共用部分では各行事の写真が飾られ、思い出を語られるように工夫されている。狭くて歩行訓練はしにくく、器具の利用頻度は低い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置き、お茶を飲んだり、お話をする空間を設けている。ホールにはソファを置き、落ち着いて過ごせるようなスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物などを聞き、居室に置くようにしている。持ち込みの少ない方には壁に行事の写真や色紙を貼り温かい雰囲気やくつろげる環境作りを行っている。	本人の馴染みの物や写真などが置かれていて、家に居る様な雰囲気作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じて、できること、わかることを見極め家具の配置変更を行っている。居室で歩行器のや車いす使用している方は、動きやすいように家具配置している。		